



先人が、歩いた道

歴史を感じる

「私には日本で見てきたどの峠にもましてこの峠がすばらしいと思われた。光り輝く青空の下でもう一度見たいとさえ思ったことだった。」(295頁)

この文章は、英国の紀行作家イザベラ・バードの著作『新訳日本奥地紀行』の一文です。

矢立峠の美しい自然をみようと思ってきました。

矢立峠は、秋田県大館市と青森県平川市の県境にある峠で古くから人々の交通の要衝であり難所とされています。(某tv局のバスで旅する番組では、徒歩で超える場面がありました。)

遊歩道を散策すると「イザベラ・バード記念碑」があり、当時をしのぶことができます。また、伊能忠敬、吉田松陰、明治天皇などがこの峠を越えたとされ、記念の碑が建立されています。

歴史上の人物が通った道を実際に通って旅をするのもいいかもしれません。

# 本を持って出かけよう

…… 第3回 ……

矢立峠を歩く



## 『新訳日本奥地紀行』

英国の紀行作家イザベラ・バードが、明治11年6月～9月にかけて東京から北海道までを旅行した記録。文明開化でにぎわっている東京・横浜と違う地方の風俗・自然等が細かく記載されている。

『新訳日本奥地紀行』(東洋文庫)  
イザベラ・バード [著]; 金坂清則訳,  
平凡社, 2013年  
080 || 11 || 840 (文庫新書コーナー)

## 附属図書館 文庫新書コーナー

図書館本館2階には、アジア地域に関する古典作品を現代日本語訳で出版している東洋文庫の他に岩波文庫・筑摩文庫などを集めた「文庫新書コーナー」があります。お出かけのおともにぜひ。